



べる きっず

No. 7

令和 7 年
9 月 16 日



すずか幼稚園
第2すずかきしおか幼稚園

祝 敬老の日

お招き会

本年度の「敬老の日」は9月15日(月)でした。

本園では、敬老の日に合わせて、園児たちの「おじいさま、おばあさま」を園にお招きして、園児たちと一緒に活動をしていただく「お招き会」を実施しております。

9月10日(水)に年長組は、すずか幼稚園では「おつきみキャッチ」として、月にいるうさぎが作ったおもちゃを飛ばしてキャッチする活動を、第2すずかきしおか幼稚園では、折り紙の弦を作り、それを駒にして「すごろく」をする活動をしました。

11日(木)に年中組は、すずか幼稚園では「わくわくクレーンゲーム」として、紙コップとストローでクレーンを作り、てづくりアイテムをつかむという活動で楽しみ、第2すずかきしおか幼稚園では、ぬりえをしたり切ったりした後「パズル」をして遊びました。

12日(金)に年少組は、すずか幼稚園では「紙コップが走る1?トットコレース!!」として、輪ゴムと重りをセットした紙コップを走らせて遊び、第2すずかきしおか幼稚園では、折り紙で魚を作り、ストローで作った釣り竿で魚釣りをしました。

同じ日に年年少組は、すずか幼稚園では「紙コップで風車」として、紙コップとストローで可愛い風車を作り、第2すずかきしおか幼稚園では、8枚ほどのカードに色を塗り、全部のカードを裏返して絵を合わせる活動をしました。

どの学年も、おじいさんやおばあさん、おうちの人たちと一緒に楽しく活動ができましたし、触れ合うことができたと思います。

また、今回の「お招き会」に先立ち、子どもたちが書いた手紙を投函しました。子どもたちは、発達年齢の違いから、文字で手紙を書いたり、絵を描いたりして、封筒に大切にを入れていました。すずか幼稚園では、9月8日(月)に、鈴鹿郵便局の局員さんに来園していただき、園内の臨時ポストや郵便局お手製のポストに投函しました。第2すずかきしおか幼稚園では、10日(水)に白子郵便局の局員さんと「ボスクマ」というキャラクターに来園していただき投函しました。



おじいちゃん
おばあちゃん
いつもありがとう



いつまでも 元気でね!



食物をとるということ

人間のように雑食性の動物は別として、普通の動物は何でも食べられるわけではない。すると、いつ、何を、どのように食べたらいいかということ学習する必要がある。

草食動物でいえば、野生の植物の中には、毒キノコのように中毒するものもあるし、食べられるけれどもほとんど消化できないものもある。おなかにはいつから消化器を傷めるものもある。そういうものを食べずに、その種にもっと適した食べ物を自然界に探す必要がある。

たとえば、コアラはユーカリの葉しか食べないし、パンダは竹である。あるいはアフリカにいるアンテロープ類も、この時期にはこの草原のこの草を食べることがほぼ決まっている。これらは非常に極端な例だが、どの種の子どもの母親のやり方を見ていて、学習の時期に覚えていくのである。そういうことを知っていれば、少なくとも飢餓で死ぬことはないのだから、それは生きていくために最低限必要なことでもあるわけである。

これは肉食動物にもいえることで、どの種類の獲物をどの時期にどのようにねらうかというのは学習しなければならない。たとえば、オオカミが身分不相応に大きなエルクジカを一頭だけでねらうとすれば、確実にこちらがやられてしまう。バイソンにしてもしかりで、ああいう大きなものを一対一では襲えないということは、学習として習っていくのである。さらに、ヤマアラシのように全身とげだらけのものをどうやって攻撃したらいいか。攻撃してみても、ヤマアラシのとげが自分の体に刺さって、それを抜くことができないとしたら、相手を殺すことはできても、自分の損失のほうがあるかに大きいのだからそれは襲ってはならないものだという事になるし、スカンクのように猛烈な悪臭を持っている動物、白と黒のまだらでこういう音を立てる動物は警戒しなければならないということも学習するわけである。

だから、親たちは自分が生きてきた範囲でこの時期に食べられるもの、自分の体にふさわしいものはこれで、これには決して手を出してはいけないということ、その時期に徹底的に教え込むのである。

(元上野動物園長 中川志郎 著「パンダは舐(な)めて子を育てる」より抜粋)

